

令和4年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

入賞作品集



令和4年度

「平和について」ポスター・作文コンテスト

- 1 募 集 広報ちがさき5月1日号及び学校を通じて市内在住・在学の
小学校6年生と中学校2年生を対象に「平和について」のポ
スター・作文を募集。

- 2 参 加 状 況

小学校6年生ポスターの部	10校	1,006人
小学校6年生作文の部	(応募はありませんでした)	
中学校2年生ポスターの部	5校	46人
中学校2年生作文の部	3校	193人

- 3 審 査
 - (1) 一次審査
 - ・ポスターの部
6月22日(水)午後3時30分から午後5時まで
市役所本庁舎4階 会議室1～5
 - ・作文の部
6月2日(木)から6月10日(金)まで
 - (2) 最終審査
 - ・ポスターの部
7月1日(金)午後1時30分から午後3時30分まで
男女共同参画推進センターいこりあ 大会議室
 - ・作文の部
6月15日(水)から6月24日(金)まで
 - (3) 賞の決定
7月1日(金)午後1時30分から午後3時30分まで
男女共同参画推進センターいこりあ 大会議室

- 4 審 査 員
 - (1) 一次審査員
茅ヶ崎・寒川地区小学校教育研究会推薦教諭
茅ヶ崎・寒川地区中学校教育研究会推薦教諭
(ポスター4人・作文2人)
 - (2) 最終審査員
市長、市議会議長、教育委員会教育長、文化生涯学習部
長、教育指導担当部長、学校教育指導課長

目次

ポスターの部（小学校六年生） 入賞者

市長賞

P e a c e P i e c e

平和のかけらで思いをつなごう

鶴が台小学校

中村 なかむら

新 さら

・
・
・
・

1

議長賞

世界の平和を続けよう

室田小学校

所 ところ

楽楽 らら

・
・
・
・

1

教育長賞

今飛びたつ時

小出小学校

西山 にしやま

心乃花 このか

・
・
・
・

2

ポスターの部（中学校二年生）入賞者

市長賞

共に歩もう、私達の道。

北陽中学校

平田 ひらた

真央 まお

・
・
・
・

3

議長賞

武力で幸せは掴めない

第一中学校

豊田 とよた

このは

・
・
・
・

3

教育長賞

築こうそれぞれの個性あふれる平和な世界

浜須賀中学校

武田 たけだ

百々花 ももか

・
・
・
・

4

作文の部（中学校二年生）入賞者

市長賞

平和と記憶と武器と夢

赤羽根中学校

細沼ほそぬま

茅春ちはる

・
・
・
・

5

議長賞

平和の輪

赤羽根中学校

船木ふなき

七海ななみ

・
・
・
・

7

教育長賞

争いへの疑問

鶴が台中学校

中尾なかお

麻夏あさか

・
・
・
・

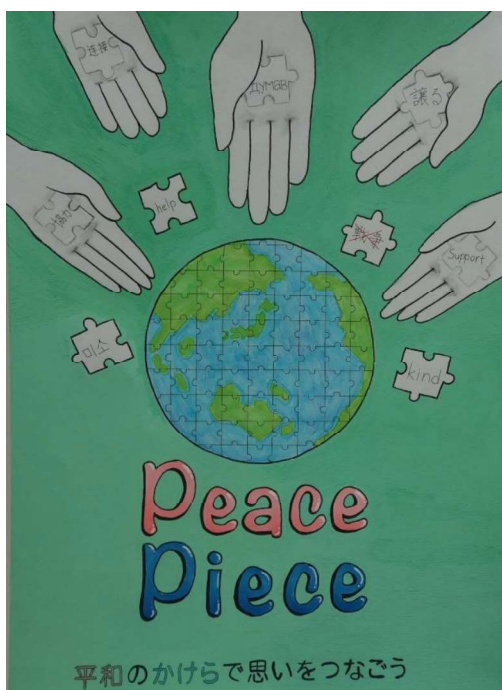
8

ポスターの部（小学校六年生）

市長賞

鶴が台小学校

中村 新



議長賞

室田小学校

所 楽々



教育長賞



小出小学校

西山^{にしやま}

心^{こゝろ}乃^の花^{はな}

ポスターの部（中学校二年生）

市長賞

北陽中学校

平田 真央



議長賞

第一中学校

豊田 このは



教育長賞

浜須賀中学校

武田

百々花



作文の部（中学二年生）

市長賞

平和と記憶と武器と夢

赤羽根中学校

細沼ほそぬま 茅春ちちはる

「平和」と聞くと大抵の人は「戦争のない、幸せな状態。」を思いうかべる。実際、辞書にもそんな風を書いてある。

しかし、そうでない場所が今も昔も世界中の色々な場所に存在する。

私たちは授業やニュースで「戦争」について教わる。過去のことだと思ふ人は大勢いる。確かに過去に起こった事だ。けれど、当時の人々は深く傷ついた。家族や友人、家、思い出、大切なものが次々となくなってしまう、食べ物だって全然足りない。

これは、77年も前の出来事だ。実際に体験した人はだんだん少なくなっている。だからこそ、戦争を体験した人の話を聞き、それを年下に受け継ぎ、争っても良いことなんてないと伝えなければならぬ。

伝えたとところで、「そんな事もあったんだね。」で終わってしまう。きっとそれは、人々の中にある、「過去の事。」という意識が

そうさせているのだと思う。

しかし、今年の春頃から、そんなものは通用しなくなった。ロシアがウクライナに侵攻した。朝や夕方にニュースを見ると、どのチャンネルでも必ずこの話がでてくる。私はそれを毎日見ている。一進一退を繰り返しているけれど、決して良い状況ではない。周りの国も、焦っているように見える。

私も少し怖いと思う。もしも、ウクライナだけにとどまらず、世界中に攻撃してきたら、昔より技術が進んでいるから、第二次世界大戦のときよりも、酷い状況になるだろう。

誰も武器を持たないで欲しいし、武器を持つ必要のない世界であって欲しい。傷つけ合うのではなく、国境も人種も宗教もなにも関係なく、支え合って補い合って楽しく関わり合える世界になって欲しい。

私には小学校、中学校と平和学習をしてきて、将来したいこと、夢ができた。

それは、今までに戦争や内戦などがあつた国に行き、戦争などを体験した人に話を聞き、それを世界に発信し、だんだん平和にしていくことだ。本当ならば、今、戦っている人たちがその地域にいる人たちに水や食べ物などを届けたい。けど、残念なことにそれは実現できない。だから大人になったら絶対に現地に行き、街をもとに戻したりするのを一緒にやりたい。

平和とは、戦争がない状態だけでなく、過去の出来事をもとに、世界をよりよくしようとしている人々や、国境など関係なく、互

いに、支え合い、助け合う人々の姿を表すのではないかと私は思う。

議長賞

平和の輪

赤羽根中学校

船木 七海

笑い合える友達がいること。お腹が空いたらおいしい食べ物を食べられること、温かい布団で眠れること。これが私の当たり前の日常です。私が考える平和とは、これらの小さな日常の積み重ねなのです。しかし、今、私が当たり前に感じている平和は、昔は当たり前ではなかったそうです。私のひいおじいちゃんは、第二次世界大戦の時に、実際に現地に行って戦っていました。今はもう亡くなってしまいました。が、とても明るくて楽しい人だったと聞いています。そんな私のひいおじいちゃんは、ある日戦時中のことを母に語りました。

当時兵隊として現地に向かったひいおじいちゃんでしたが、故郷に残した家族や大切な人を思うと足がすくんで動けなくなってしまう。人を殺すことへの恐怖心。そういったものに押しつぶされそうだったと言っていたそうです。しかし、戦地ではそんなことを言っている人はいません。帰りたくとも帰れない。このような戦場で恐怖心と罪悪感と闘いながら人を殺めていたと言っていたそうです。今となっては人を殺してはいけないということとは当たり前のことです。今ではとても考えられません。戦時中は人を殺すことが日常であり、当たり前だったのです。その話を聞いたときに、母は目の前にいる優しく楽しいひいおじいちゃんが人を殺していたということがとても信じられ

ない気持ちになったと言っていました。当たり前前の日常が奪われてしまうことで、人は変えられてしまうということが私も怖く思いました。人を殺すことが日常という残酷な世界は今の時代を生きる私にはとても想像が付きません。この想像のつかない世界を生きていた人たちの思いは決して忘れてはいけないことだと強く思いました。

だからこそ、今、自分の周りには日常という平和を大切にしていることが大事だと思いました。一人ひとりが自分の身近にある小さな平和を大切にしながら生きていく。それだけで、小さな平和を思う気持ちが繋がりが合い、やがて大きな「平和の輪」になっていくのではないかと思います。人によって当たり前前の日常が違うように、平和も人によって色々な考え方や感じ方があると思います。そして、その平和を思う気持ちの相違によって戦争が起こってしまうことがあると思います。

しかし、その考え方や感じ方の違いを互いに認め合うことができたとき、それは大きな平和の輪に繋がっていくのではないのでしょうか。平和の輪を世界中と繋げることのできるその日まで、私は自分のすぐ身近にある、かけがえのない日常に感謝を忘れず、大切に思っています。

今の私には世界中を平和にすることはできません。しかし、小さな平和を思う気持ちは必ず大きな平和の輪に繋がれることを信じています。

教育長賞

争いへの疑問

鶴が台中学校

中尾なかお 麻夏あさか

世界では、争いが続いている国や地域がある。そしてそれを、他人事のようにして目をそらす人がいる。どうかみなさんには知ってほしい、事実を見てほしいと今日も私は心の底から願っている。

私が世界で起きている紛争について知ったのは、小学六年生の時だった。総合の自習学習の時間に、世界で起きている問題について調べられる機会があり、それをきっかけに「世界には紛争という争いが続いている国や地域があつて多くの人が苦しんでいる」ということを知った。それは今まで、「戦争はもう起きていないし、今後も起きない」と心のどこかで感じていた私にとって、とても悲しく、紛争が起きていると知ったにもかかわらず何もすることができない自分に対しての悔しきで溢れる事実となった。しかし、私の考えをうらぎったのはそれだけではなかった。いつしか、テレビのニュースを見ると、国軍のクーデターから始まったミャンマー内戦や香港民主化問題、そして現在では、ロシアとウクライナの戦争についての情報があとをつきない。なぜ、世界の平和を崩してまで、争いを続けるのだろうか。今を生きる私たちに大きな疑問がふりかかっていた。

私は、ニュースを見てこの疑問が頭に浮かぶたび何度も自分の中で答えを探していた。この疑問について考えれば考えるほど、平和がど

れほど尊く、大切なものかを理解した。平和であるからこそ、青空の下、今日も笑顔で生きることができている。一方で、紛争地はどうだろうか。私と同じくらいの年の子が敵から逃げているかもしれない。家族を探しているかもしれない。とてもおなかを空かせているかもしれない。実際にいくつかの地域では公園や学校、そして家で攻撃や暴力の被害にあう子どももいる。そう考えると私は胸が苦しくなった。平和なぜ一人一人に平等ではないのだろうか。新しい疑問と共に、私自身が平和を広げていきたいという思いが強くなった。

世界では今もお紛争が起こっている。これは私たちが止めたいと思つて止められる問題ではないだろう。しかし、それがこの問題から目をそらす理由にはならない。一人一人が世界で起きている事実と向き合い、考えることが、争い事の抑止力となり、平和に繋がっていくはずだ。

平和はとももろい。だからこそ私たち一人一人が意識して守っていかなければならないのだ。平和をつくるのも人間だが、平和を壊してしまっているのも人間、その責任をしっかりと持って、平和と共に生きていくことが大切である。

平 和 都 市 宣 言

茅ヶ崎市は、正義と秩序を基調とする世界平和を希求している日本国憲法の精神にもとづいて、世界連邦の建設に同意し、世界の永久平和の確立と人類の福祉増進のために、全世界の人々と相結んで、この崇高な目的の達成に努力する平和都市であることを宣言する。

1962年12月19日 茅ヶ崎市議会

茅ヶ崎市核兵器廃絶平和都市宣言

茅ヶ崎市は、1962年12月19日世界人類共通の願いである真の恒久平和を希求し、その実現に努めるため、平和都市宣言を行った。

しかるに地球上では今なお核兵器の増強はとどまることなく、全人類の生存に深刻な脅威をあたえている。

よって、再び全市民の名において次の宣言をする。

日本国憲法に基づき国是である非核三原則を遵守する国とともに、地球上のすべての自然を破壊し、全人類を滅亡させるにたるあらゆる国の核兵器の使用を全面禁止する国際世論を喚起するため、茅ヶ崎市はここに核兵器廃絶平和都市であることを宣言する。

1985年12月24日 茅ヶ崎市

令和4年度 「平和について」ポスター・作文コンテスト入賞作品集

令和4（2022）年8月発行

第1刷 67部作成

発行 茅ヶ崎市

編集 文化生涯学習部男女共同参画課

〒253-0044

神奈川県茅ヶ崎市新栄町12番12号茅ヶ崎トラストビル4階

茅ヶ崎市男女共同参画推進センター いこりあ内

電話 0467-57-1414

FAX 0467-57-1666

ホームページ <https://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/>

※掲載されている作品は、令和4年6月15日以前に書かれたものです。

※作品集の作成にあたり、明らかな誤字・脱字以外は原文のままに編集を行っています。